

利益率、付加価値率、労働分配率

「売上高・経常利益率を決める大きな要因が二つある。一つは付加価値率(付加価値÷売上高)である。

…もう一つは、労働分配率(人件費÷付加価値)である」 山家(2019)第1章、18頁。

「付加価値は、人件費、金融費用(利子)、家賃、地代等に充当され、残余が企業収益となる」 同上。

企業会計上の利益には、営業利益、経常利益、当期純利益などがあるが、
以下では、「経常利益」ではなく、「利益」で考える。

また、利益＝金融費用(利子)＋家賃＋地代＋企業収益

さらに、企業が製品を売るには、原材料、機械や建物、電気代、通信料金、包装などの物件費がかかる。
物件費＝原材料費＋減価償却費＋その他の物件費

売上高＝物件費＋人件費＋利益

利益＝売上高－物件費－人件費

付加価値＝人件費＋利益 ～労働が物件費に付加した価値。利益の源泉。

利益＝付加価値－人件費

$$\text{売上高利益率} = \frac{\text{利益}}{\text{売上高}} = \frac{\text{付加価値} - \text{人件費}}{\text{売上高}} = \frac{\text{付加価値}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{付加価値} - \text{人件費}}{\text{付加価値}}$$

この式を 式 1 とする¹。

式 1 の一部につき、

$$\frac{\text{付加価値}}{\text{売上高}} = \text{付加価値率} \sim \text{売上高にたいする付加価値の比率}$$

式 1 の別の一部につき、

$$\frac{\text{付加価値} - \text{人件費}}{\text{付加価値}} = \frac{\text{付加価値}}{\text{付加価値}} - \frac{\text{人件費}}{\text{付加価値}} = 1 - \frac{\text{人件費}}{\text{付加価値}}$$

上の式の一部につき、

$$\frac{\text{人件費}}{\text{付加価値}} = \text{労働分配率} \sim \text{付加価値のうち労働者に分配される部分の比率}$$

式1は、次の式に変換できる(式 2)。

$$\text{売上高利益率} = \text{付加価値率} \times (1 - \text{労働分配率})$$

つまり、利益率の上昇は、付加価値率の上昇あるいは労働分配率の低下(人件費の縮小)による。

¹ たとえば、 $3/5 = 2/5 \times 3/2$ というように、2 を使って分解できる。